

第5学年 国語科学習指導案

日 時：平成 年 月 日() 第 校時
場 所：5年教室
授業者：
児童数：男 名、女 名

1 単元名

[伝記を読んで、自分の生き方について考えよう]

教材名：「百年後のふるさとを守る」

河田 恵昭

2 指導の立場

(1) 子どもの実態

元気があり、活発に活動することが得意で、どのような活動も楽しく取り組むことができる。学習に関しては、「聞く・話す」力が十分でないため、国語に対する苦手意識も強く、意欲も低かった。また、自分の考えになかなか自信をもつことができず、せっかくノートに書いてあっても、挙手・発言に繋がっていかない子どもも多かった。しかし、5年生の教材「あめ玉」や「のどがかわいた」の学習を進めていくうちに、文章の中の言葉をつぶさに追っていくことで読み取りが深まるおもしろさを発見したり、根拠を基に自分の意見を発表することの大切さに気付き始めたりしている。また、読書が習慣化していきいている子どもも増えてきた。

(2) 本時の指導にあたって

【自分の考えをもつための指導方法の工夫】

単元の学習と平行して、自分が選択した伝記を読む。その伝記を簡単な紹介文と3つの視点でまとめ、読んでみて感じたことや思ったことを書きまとめる活動を前時に位置付ける。そうすることで、自分の選択した伝記から「自分の生き方と比較するとどうか」という考えをもちやすいようにする。

【伝え合うための指導方法・指導形態の工夫】

同じ伝記を読んだ仲間と5人グループを編成して交流する。伝記を読んで注目したところを発表し合う。そして、誰がどこに注目したかが明らかにした上で、注目した理由を交流する。そうすることで、自分の考えと同じ点や違う点に気付く、「～さんと同じなのは…」や「～さんとのちがいは…」といった交流ができるようにする。

【ねらいに迫るため必然性のある指導方法の工夫】

「伝記のよさとは何か」と問うことで、伝記を含めた今後の読書活動の意欲を高めたい。また「伝記のよさ」を実感できるよう、子どもが読む作品を7種類とし、グループ交流後に全体交流をする。これにより、違う伝記を読んだ仲間も、自分を見つめ直し、自分の生き方について考えていることに気付けるようにする。

3 本時の目標

伝記を読んで思ったことや考えたことを発表し合う活動を通して、自分を見つめ直し、自分の生き方について考えることができるという「伝記のよさ」に気付くことができる。

4 本時の展開

過程	過程の目標	主な学習活動	指導・援助 深めの発問 評価基準
つかむ	○ 前時までの学習を振り返るとともに、本時の学習内容の見通しをもつことができる。 ○ 本時の学習課題をつかむことができる。	1 前時までの学習を振り返る。 ・ 前時のまでの学習から、伝記の読み方として「人物がしたこと」「人物の考え方」「筆者が人物の業績に見出している意味」の三点について着目しながら読むことを振り返り、自分が選んで読んだ伝記についてまとめたものがその三つの視点に沿って書かれていることを確認する。 2 本時の課題をつかむ。 伝記を読んで、感じたことや思ったことを交流し合おう。	・ 掲示物をもとに、前時までの振り返り、本時の学習内容を振り返る。 ・ 本時は、前時までの「百年後のふるさとを守る」で学習してきた伝記の読み方を生かし、自分が選んだ伝記を読んで思ったことや考えたことを仲間と発表し合う授業であることをつかむことができるようにする。
ふかめる	○ 3つの視点を交流し、それに対する自分の考えを仲間と発表し合うことができる。 ○ グループ交流で聞いた仲間の考えに対して自分の思ったことや感想を発表することができる。 ○ 伝記を読むことのよさを発表することができる。	3 グループ交流する。 ・ この人物はこんなに苦労して成功しています。だからすごいと思いました。 ・ この人物は～という考え方をしました。これは自分と少し似ていると思いました。 ・ 自分もこの人物と同じようなことが前にあったが、ほとんど同じ考え方をしました。 ・ 筆者は人物の～という行動に注目している。それがどれだけすごいことなのかを詳しく説明している。 ・ 人物のこの生き方は自分には真似できないと思います。でも、もし同じような場面があったら自分もチャレンジしてみたいと思いました。 4 全体で交流する。 ・ ～さんは「～」という伝記を読んで、その人物の～に感動したと言っていました。私も同じことを思いました。 ・ ～さんは「～」という伝記を読んで、その人物の～という生き方にチャレンジしてみたいと話していました。その意見と同じで、私も見習いたいと思いました。 ・ ～さんは「～」という伝記を読んで、その人物の生き方を真似したいと話していました。でも私は少しだけ違って、同じ場面がきたら～したいと思いました。 ・ 伝記を読むことで、自分の生き方を振り返ることができると思います。 ・ 伝記を読むことで、自分の考え方と伝記の人物の考え方を比べることができて、自分の考え方を変えることができると思います。 ・ 伝記の人物と同じような場面に出くわしたときに、自分がどうすればよいのか知ることができます。	・ グループ交流は、同じ伝記を読んだ子どもで5人グループを編成して行う。それにより、それぞれが考えたことに共感したり、自分の思ったことと比較して仲間の考えを聞いたり、自分の考えを話したりすることができるようにする。 ・ 交流は、最初に司会者と記録者を決めることを確認する。 ・ 全体交流では、交流した内容を説明するのみで終わるのではなく、同じ人物の伝記を読んでも、読む人によって捉え方に違いがあることを明確にするために、仲間の考えや感じ方を聞いた感想を中心に発表するようにする。 「伝記を読むことのよさって何だろう」と発問することで、この単元を学習してきた意味を考えるとともに、今後の読書活動に対する意欲を高める。
まとめる	○ 本時学んだ「伝記のよさ」をまとめることができる。 ○ 書いたまとめを仲間発表することができる。	5 本時のまとめをする。 伝記を読むことで、自分の生き方や考え方を振り返ったり、自分とはちがった生き方をした人のことを学んだりすることができるので、今後もっとたくさん伝記を読みたい。 6 まとめの交流 7 本単元の最初にとったアンケート結果をみて、学習する前と学習した後の自分たちの伝記に対する気持ちの変化を確認する。	・ 本時のまとめは「伝記を読むことで」から書き始めることと、「自分」というキーワードを使って書くようにする。 伝記を読み、仲間と交流する活動を通して、伝記を読むことのよさに気付くことができている。(書)

5 国語科単元指導計画

(1) 単元の目標

- ・目的に応じて、本や文章を比べたり関連させたりして読み、考えたことを発表し合って、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 (Cイ)
- ・書いたものを発表し、表現のしかたに着目して助言し合うことができる。 (B力)

(2) 単元を貫く課題

「百年後のふるさとを守る」や自分が選んだ伝記を読み、伝記のよさとは何か考えよう。

(3) 単元指導計画 : 全9時間

時数	目 標	主な学習活動	評価規準
一次	伝記の特色や読む意義についてまとめ、これまでの自分の生き方や考え方を振り返ることができる。	・伝記を読んだ経験や感想を発表し合う。 ・これまでの自分の生き方や考え方にについて振り返り、書きまとめる。 ・伝記に対する印象をアンケートで調べる。	伝記を読んだ経験や感想を進んで発表しようとしている。 (関)
	全文を通読し、大体的内容と文章構成をとらえることができる。	・題名に着目し、分かることや疑問に思うことを発表し合う。 ・文章構成を確認する。	大体的内容と文章構成をとらえている。 (関)
二次	文章構成に気をつけながら、儀兵衛がしたこと、その考え方を読み取ることができる。	・「2」を読み、儀兵衛の行動・文章表現の特色をとらえて、自分なりの考えをもつ。 ・「3」を読み、儀兵衛の行動・文章表現の特色をたらえて、自分なりの考えをもつ。	行動や考え方についての描写をとらえ、人物の生き方を読み取っている。 (読)
	文章構成に気をつけながら、儀兵衛がしたこと、その考え方を読み取ることができる。	・「4」を読み、儀兵衛の行動・文章表現の特色をたらえて、自分なりの考えをもつ。 ・教科書P71下段の「儀兵衛」の課題。考え方をまとめる。	行動や考え方についての描写をとらえ、人物の生き方を読み取っている。 (読)
	儀兵衛の生き方、筆者が考える儀兵衛の業績の意味について、考えを深めることができる。	・儀兵衛の生き方、筆者が考える儀兵衛の業績の意味について、自分が考えたことを書きまとめる。 ・書きまとめたものを基に、グループで話し合う。	感想や意見を発表し合い、自分の生き方についての考えを広げたり深めたりしている。 (関)

	これまでに学習してきた「百年後のふるさとを守る」から、伝記の読み方を確認し、次時に書く紹介文に対する見通しをもつことができる。	・「百年後のふるさとを守る」での読み取りを復習する。 ・伝記の読み方を確認する。	これまでに学習してきた内容を振り返り、次時の授業に対する見通しをもっている。 (関)
	これまでに学習した伝記を読む三つの視点を確認することを通して、「百年後のふるさとを守る」についての紹介文を書くことができる。	・「百年後のふるさとを守る」を、学習した三つの視点で書きまとめ、紹介文を作成する。	「百年後のふるさとを守る」を三つの視点で紹介することができている。 (書)
三次	前時に書いた「百年後のふるさとを守る」の紹介文を参考に、自分が読んだ伝記についての紹介文を書くことができる。	・前時に書きまとめた紹介文を交流し、自分の紹介文を修正する。 ・自分が選んで読んだ伝記の紹介文を書く。	自分が選んだ伝記に関する紹介文を、三つの視点で書くことができている。 (書)
本時	伝記を読んで思ったことや考えたことを書いて発表し合う活動を通して、伝記のよさに気付くことができる。	・同じ人物の伝記を読んだメンバーでグループを編成し、自分の読んだ伝記について感じたことや思ったことを交流する。 ・全体交流する。	伝記を読み、仲間と交流する活動を通して、伝記を読むことのよさに気付くことができている。 (書)